

選考委員のコメント（山陽女子高校）

○クリエイティブ・コモンズを活用し直面する2つの問題を解消しようとした取り組みは一つの考えではあると思う。しかし、「6. 成果と課題」で記載している通り、クリエイティブ・コモンズでは侵害を受けた場合の対応や②の解散後の著作権管理についての実効性はない。さらに、演奏・ボーカル係である実演家の権利についての考察もほしい。今後は、自分たちの著作権をどう守るのかも課題の一つとされ引き続き検討してもらいたい。学校の授業として行われた行為であることから、権利を学校に譲渡し著作権者である学校の責任として管理をすることも一つの選択肢と思われる。

○これまで学校現場での課題となっていた、共同制作した成果物の学級解散後の著作権管理について解決を図ろうとする取り組みはすばらしい。しかし、クリエイティブ・コモンズによって公開した結果、どのような成果や課題がみられたのかについて一番知りたいところであるので、是非報告していただきたい。

○水準が高く、どの学校にもすぐ当てはまるという実践ではないが、学校における自作の共同著作物の管理・利用についての、今後必ず起こりうる難しい課題に一定の方向を示した優れた実践事例である。

○英語・音楽の課程の特性をマルチメディア作品制作に生かしており情報科の実践として優れている。

授業の展開内容は明確であるが、授業を通じた生徒の変容は明記されていない。

クリエイティブ・コモンズを例として著作者としての著作権管理に着目した点は斬新である。

クリエイティブ・コモンズは万能ではなく課題もあることから、無批判に採用するのではなく、適用場面や特質を把握し、選択肢のひとつとして学ぶスタンスが重要である。本実践では、共同制作の楽曲の著作権管理という課題への解決策として導入したものであり、適切な例と考えられる。

○クリエイティブ・コモンズ・ライセンスの言葉を用いて分かりやすく説明している。

生徒自身が著作者の立場で考えたシナリオになっていてよい。

生徒の活動場面やワークシートなどがまとめられていて、実践しやすい内容になっている。

制作から公開までのカリキュラムに「著作権の基礎」が位置づけられていてよい。

ページ数をコンパクトにできるとさらによい。

- 「クリエイティブ・コモンズ」という新しい概念を取り上げ、生徒たちと一緒に考えようとする先生の真摯な姿勢に心を打たれる。授業で作成した著作物の、今後の方向性を示す実践である。
- 学校内における著作物に管理について、クリエイティブ・コモンズの内容を取り入れ、かつ、実践させたという授業は大変意義深い。
- 生徒自身が著作者として情報発信をする側になり、学習していく方向性を評価。
- 教科の学習と教科「情報」の学習と連携して行っている点が素晴らしい。
著作権について意識して作品づくりを行っているのは分かるが、説得力が弱い。